

松が谷高校の生徒の皆さんへ（２） ー校長メッセージー（４月２７日）

「挨拶」（あいさつ）について

生徒の皆さん、こんにちは。

この「こんにちは」という言葉は、私たちが日頃よく使う挨拶（あいさつ）ですが、皆さんはこの「挨拶」という難しい漢字で表す言葉の語源をご存じですか？ 現在、臨時休業のため家庭の中で過ごす時間が長い、このような状況だからこそ、学校生活でも家庭でも、社会に出ても非常に大事になってくる、「挨拶をする」ことの意味について、ちょっと立ち止まって考えてみませんか？

「挨拶」という言葉は、禅宗で問答を交わして相手の悟りが深いか浅いかを試みることを「一挨拶（いちあい いっさつ）」ということから、一般に問答や返答のことば、あるいは手紙の往復などのことを「挨拶」と呼ぶようになったのが由来だそうです。「挨（あい）」も「拶（さつ）」も本来は「押す」という意味で、一方が言葉を投げかけて、相手に気を向け、また向けさせて心を測り、心を通わせる手段として、今日一般的に交わす「挨拶」という言葉になったといわれています。

なぜ私がここで「挨拶」という言葉を取り上げたかということ、社会の中での人間関係は、まさに「挨拶に始まり、挨拶に終わる」と実感することが実に多いからです。挨拶がきちんとできる人は、豊かな人生を送ることができるでしょうし、その逆は容易に想像がつくと思います。まさに挨拶は「基本的なマナー」であると同時に、「対人関係の潤滑油」であると言えるでしょう。

昔から日本人は、道行く人々には誰にでも、たとえ見知らぬ人にでも声をかけてきました。挨拶ができない者は恥とされ、一人前とはみなされませんでした。今でもビジネスの世界、親戚や近所関係など各コミュニティの中ではそういった傾向が見られます。学校でもそうですね。「おはよう」などの挨拶語やお辞儀などは、最も基本的な日本の慣習として今後も残っていくでしょう。

現在使われている「おはよう」は、「お早くから、ご苦労様でございます」などの略だと言われています。それは朝から働く人に向かって言うねぎらいの言葉でした。「こんにちは」は「今日は、ご機嫌いかがですか」などの略で、お昼に初めて出会った人の体調や心境を気遣っていました。「こんばんは」は「今晚は、良い晩ですね」の略だと言われます。また、「さようなら」は「左様ならば」の略のようです。「それならば、私はこれで失礼いたします」という意味の言葉になるのかもしれないですね。

生徒の皆さんは、学校が再開したら、新しいクラスメートや先生と出会う機会が確実に多くなります。ぜひ気持ちよく挨拶して、人間関係を広げていきましょう。私が大事だと思うのは、挨拶をしても「見返り」、つまり相手から挨拶が返ってくるのを求めないことです。挨拶をした相手は、無視したわけではなく、たまたま何か考え事をしていただけなのかもしれませんから。自分から「挨拶した」ことで「幸せ」だと思うようにすると気持ちも楽ですよ。

令和２年４月２７日
都立松が谷高等学校長
博田 英明